

南川三治郎氏追悼 写真展

2020年

1月11日[土]



2月9日[日]

時間 = 9:00~17:00

「イコン」は、ビザンチン帝国（東ローマ帝国395—1453年）の国教となったキリスト教の神学に基づいて制作された、平面的な画像である。
……真のイコンは、
神によって写し出されたもの、
選ばれた聖職者が、神の声を聞き、
祈りと修業の
中で描いたものという。



《全能の救世主》 PHOTO BY SANJIRO MINAMIKAWA

イコンの道

アンコール

会場 = 白鷹町文化交流センターあゆ一む(ギャラリー)

〒992-0771 山形県西置賜郡白鷹町大字鮎貝 7331 番地

休館日 = 月曜日 (月曜日が祝日の場合はその翌日)

観覧料 = 一般個人 500円 大学生・高校生 200円 中学生以下 無料 団体 400円 (15人以上)

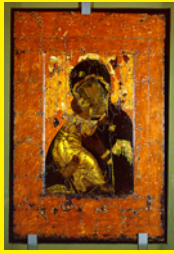
※あゆ一む年間パスポート提示で200円引き ※大学生以下のかたは学生証・生徒手帳をご提示ください

主催 = 白鷹町文化交流センター

問合せ = 白鷹町文化交流センター TEL.0238-85-9071



《ウラディーミルの聖母》
トレチャコフ美術館蔵
アンドレイ・ルビヨフ画



《ウラディーミルの聖母》
1131年頃
コンスタンティノープルで製作



《キリスト(ディーススからの部分)》
イスタンブール・アヤソフィア寺院

南川三治郎氏追悼
写真展



シナイ山
荒野に建つ聖カテリーナ修道院

写真展「イコンの道」
アンコール

写真家・南川三治郎氏は、一昨年
(2018年)2月6日急性心不全で急逝
されました(享年73歳)。

南川氏と当館との関係は深く、4回に
わたって写真展を開催してきました。

2011年 「華麗なるヴェルサイユ宮殿」

(外国人で初めて全館撮影を許された)

2013年 「アトリエの巨匠100人」

(ミロ、ダリ、シャガールなど世界の巨匠のアトリエを取材)

2014年 「伊勢の神宮——式年遷宮」

(2013年挙行の第62回式年遷宮を8年にわたり取材)

2017年 「イコンの道」

(東方正教会に伝わるイコンを追ってエジプト、トルコ、ロシア、中欧、
東欧などを取材)

以上計4回です。

いずれの作品も余人には不可能に近いものばかりで、その取材力には驚くほかありません。何度かその秘密を聞き出そうとしたのですが、ついに聞き出すこと叶わず、苦労の一端は氏の著書の中にも書いてありますが、その秘密の全貌は彼の死とともに永遠に謎になってしまいました。

「イコンの道」は氏の多彩な作品の中でも重要な位置を占めるものです。今日の世界情勢を考えれば、取材地域の荒野のような地に建つ修道院や小さな教会を一軒一軒訪ねて実際に使われているイコンを取材するなど、およそ不可能であろうと推測されます。それを彼は今から25年ほど前に敢行し、その成果を我々は今こうして見ることができるのです。

類稀なフォトジャーナリスト・南川三治郎氏を追悼して本作品をアンコール展示し、氏の業績を偲ぶとともに、心からその冥福を祈りたいと思います。

白鷹町文化交流センター



白鷹町文化交流センター AYU:MU

[車] 山形市より国道348号線で約35分

[電車] 赤湯駅より山形鉄道フラワー長井線「荒砥」行

「四季の郷駅」下車(赤湯駅から約50分)徒歩約4分

[お問合せ] 0238-85-9071

イコンの道
アンコール

プロフィール



みなみかわさん じろう
南川 三治郎
(1945—2018)

三重県生まれ 東京工芸大学に学ぶ。
東京・パリを拠点に「ヨーロッパの
“人と文化”」をキーワードに取材活動
をしたフォトジャーナリスト。国内
外の新聞・雑誌媒体を中心に発表。

近作に『聖地伊勢へ』、代表作に『ア
トリエの巨匠・100人』、『推理作家
の発想工房』、『ヴェルサイユ宮殿』な
どがあり著書多数。

また《アトリエの巨匠・100人》、
《ヴェルサイユ宮殿》、《聖地 伊勢へ》
などの個展が日本はもとよりアメリ
カ、フランス、ウイーンなど海外でも
多数開催されてきた。

近作に20年に一度挙行される伊勢
神宮の式年遷宮を活写した《日本の心
第62回神宮式年遷宮》があり、三重
県総合博物館を皮切りに、山形県白鷹
町文化交流センター、ケルン日本文化
会館、ローマ日本文化会館、在ニュー
ヨーク日本国総領事館ギャラリー、ロ
スアンゼルス日米文化会館に巡回し、
2015年5月14日～6月12日に伊
勢・二見浦参道にある日本国の重要
文化財に指定されている賓日館で展
示された。

2016年、飯田市藤本四八写真文化
賞を受賞した。

2018年2月6日逝去。